

別記

第1号様式（第14条関係）

### 環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 府 知 事	平成30年7月17日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） サントリープロダクツ株式会社 代表取締役社長 伊藤昇 代理人 宇治川工場 執行役員工場長 喜田哲永

環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	ISO14001
適 用 範 囲	清涼飲料水、乳飲料の製造
導 入 年 月 日	平成15年 3月 2日
認 証 番 号	EMS 510961
基 本 方 針	5項目を環境マネジメントシステム（以下EMS）の推進により実行：①水のサステナビリティの追求②生物多様性保全への取り組み③「イノベーション」な3Rによる資源の有効活用④全員参加による低炭素企業への挑戦⑤社会とのコミュニケーション
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	炭酸ガス排出量抑制：CO2原単位 前年比1.5%削減（68.4→66.1kgCO2/KL） 廃棄物量の削減：前年比3%削減（32.9→31.9kg/KL 茶・コーヒー粕）
目標を達成するための取組の内容	炭酸ガス排出量抑制：①フラッシュ冷却装置停止、②抽出釜温水熱交換器の熱回収能力アップ、③ホット充填機・殺菌機の洗浄メニュー改善による蒸気量使用量の削減。 廃棄物量の削減：茶・コーヒー粕の有価取引化。
目標を達成するための取組の進捗状況	炭酸ガス排出量抑制：計画した案件は改善実施済み。 粕有価取引業者と調整。
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	計画した案件は改善できたので原単位の良化を見込んでいたが、生産工程のトラブルが多発したため、生産数量が前年比より93.3%と減少し、トラブル対応による保全・洗浄の増加によりエネルギー使用量（蒸気・電気）が増加し、また、生産工程におけるエネルギー使用量の固定部分が影響し、全体的に原単位が悪化した。 粕有価取引業者と調整がつかず廃棄物量の削減ができなかった。
事業活動に係る法令の遵守の状況	関係法規の遵守状況について1ヶ月に1回の確認を行っている。また、これまで違反及び行政当局からの指摘はなかった。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	評価・見直しの必要性については、1年に1回マネジメントレビューを実施している。 平成29年度は、現行の取組内容により一定の成果が見られたことから、平成30年度も同一のシステムにより運用予定。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。